令和８年度 和光市立北原小学校 学校経営計画

校長　岩崎　洋

１ 学校教育目標の設定方針

人権尊重の精神を基調とし、心身ともに健康で、変化の激しい社会において、主体的に考え、協働し、挑戦し続ける力を持った児童を育成する。

和光市立北原小学校 学校教育目標

【知　徳　体　絆】

【知】・・・ かしこさ 「よく考え行動する子」

1 学びへの意欲をもち、問いを立て、主体的に考え(思考力)、多面的に判断し(判断力)、適切に表現できる(表現力)。
2 既習事項や体験を活用し、問題解決ができる。
3 「今何をするべきか」「どう生きていくか」主体的に考え、言語活動を十分に活用し、学びを広げ、深めることができる。
4 ＩＣＴを活用し、知識、技能、判断力、表現力を総合的に高めることができる。

【徳】・・・ やさしさ 「仲よく助け合う子」

1「あいさつ」「返事」を大切にする。
2 相手を思いやる言葉遣いができる。
3 自分のよさに気付き、自分の可能性を信じて、自分を大切にすることができる。
4 共生、協働の重要性を理解し、仲間を大切にすることができる。

【体】・・・ たくましさ 「健康でたくましい子」

1 目標に向かって粘り強く取り組み、困難に負けない心を育てる。
2 運動や遊びに親しみをもち、主体的に体力向上を図る。
3 健全な生活習慣を身につける。
4 疾病、怪我の予防に努め、自らの健康維持・増進を図る。

【絆 】・・・ つながり 「地域を大切にする子」

1 地域の人々との関わりを通して、自分と地域とのつながりに気付き、感謝の気持ちを持つ。
2 北原小の一員として、学校を大切にし、みんなのために行動する。

学校教育目標	6 資質との対応	育成の観点
知	探究力・自己決定	思考と言語化
徳	自己理解・関係性	心理的安全性
体	挑戦回復力	レジリエンス
絆	社会参画	地域接続

2 学校経営の基本理念

― 問いが立ち、学びの翼を鍛え、共に拓く力を育む ―

開校五十周年を経て、本校は第二章へ歩みを進める。子供たちが「問い」を持ち、自ら考え、仲間と協働し、困難に向かっていく姿を日常としたい。そのために私たちは、授業を変え、関係を変え、学校文化を進化させる挑戦の１年とする。

本校は、現行学習指導要領の趣旨を踏まえつつ、次期学習指導要領に向けた論点整理との整合を図り、資質・能力の横断的育成を基盤に「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的推進を図り、児童一人ひとりのウェルビーイングの向上を教育課程全体で実現する。

本校が育成を目指す最上位概念を**『共に拓く力』**と位置付ける。

『共に拓く力』とは、他者と協働しながら主体的に挑戦を続け、困難に負けず、やり抜き、未来を創造していく力である。

その基盤となるのが**『学びの翼』**である。

『学びの翼』とは、「思考力(問いを立て、探究し、多面的に考察し、判断し、表現す力)」、「胆力(うまくいかない時にも前を向き続ける力)」の両輪で構成される教科横断的に育成される資質・能力である。

この『学びの翼』を構成する６資質は、「自己基盤」「探究基盤」「社会基盤」の３層構造として整理し、相互に循環する成長モデルとして育成する。

<自己基盤(内面の土台)>

① 自己理解(自らの特性・強みを認識する力)
② 自己決定(選択し、責任をもって行動する力)

<探究基盤(学びのエンジン)>

③ 関係性(他者を尊重し、協働する力)
④ 探究力(問いを立て、深く考える力)

<社会基盤(未来接続)>

⑤ 挑戦回復力(困難を乗り越え、やり抜く力)
⑥ 社会参画(地域とつながり、社会に貢献する力)

教育課程全体を通して、６つの資質を育て、『学びの翼』を鍛え、『共に拓く力』を育成する。

問いが立つとき、学びは受動から主体へと転換する。思考は深まり、対話は広がり、挑戦の積み重ねの中で胆力が育まれる。本校は、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進し、児童が学びによる自己の変容を実感できる学校づくりを行う。

きたはらっ子の育成

「きたはらっ子」とは、『共に拓く力』を体現する児童像である。

① き 気持ちのよいあいさつ・言葉遣い
礼儀は、他者の人格を尊重する。

② た 互いを思いやり、相手を大切にします
相手の立場や気持ちを思いやり、よさを生かす行動を実践する。

③ は 励まし高め合う仲間をつくります
「す(すんで)・い(っしょに)・じ(っくりと)」を大切にし、互いを認め合い、協働しながら課題解決に取り組む。

④ ら 「らしさ」を大切に相手へのリスペクトを表します
多様性を受け入れ、互いを尊重し合う関係を築き、ウェルビーイングを高める関係を育む。

3 目指す学校像

～ 問いを立て、学びの翼で未来を拓く北原小学校 ～

(1)子供一人一人に問いが立つ授業を行う学校 (主体的・対話的で深い学びの実現)
(2)思考を深める対話が日常にある学校(思考力・判断力・表現力の育成)
(3) 挑戦とやり抜きの経験が保障される学校(体力・学びに向かう力・レジリエンスの育成)
(4) 多様性を尊重し、ウェルビーイングを高める学校(個別最適な学び・包摂的教育・自己肯定感)
(5) 地域と協働し、社会に開かれた学校(社会に開かれた教育課程の推進)

4 経営の重点

本年度は、授業満足度・やり抜き実感・成長実感の 3 指標を重点 KPI として設定し、教育活動の改善に活用する。この数値は、現状値を踏まえた挑戦目標であり、未達時は、原因分析を行う。測定は、児童アンケートと教職員自己評価に基づき、学年別データ分析会(教育課程・評価検討委員会)で行う。

(1)思考力を鍛える授業改革(探究力×自己決定)
・「す・い・じ」(進んで・一緒に・じっくり)の徹底
・問いを中心とした授業構成

・振り返りによる学びの変容の可視化
・ICT の効果的活用
・資質能力の育成状況を可視化し、PDCA を確立するカリキュラム・マネジメントの実施
【指標】★重点
・「授業が楽しい」と答える児童 の割合（★）
・思考の深化を実感する児童 の割合

（２）胆力を育む挑戦の場づくり(挑戦回復力×協働)
・やり抜く課題の計画的設定
・協働的課題の導入
・体育・行事との連動
・挑戦や失敗を許容する心理的安全性の確保
・児童の発想を生かした学校行事、教育活動の展開
【指標】★重点
・「最後までやり抜いた経験がある」と答える児童 の割合(★)

（３）ウェルビーイングを支える関係づくり(自己理解×関係性)
＊ウェルビーイングとは、自己決定感、自己効力感、関係性が満たされる状態であり、児童の主観的幸福感と学習意欲の向上を基盤とする。
・自己有用感・自己効力感を育む教育活動
・いじめ未然防止の徹底
・組織的な教育相談体制の充実
・合理的配慮を含む個別最適な指導・支援の推進
【指標】★重点
・「自分は成長している」と答える児童の割合(★)
・いじめ早期発見・早期対応
・不登校発生早期発見・早期対応

（４）地域と共に未来を拓く教育活動(社会参画×関係性)
・北原っ子ファーム、生き物との触れ合い、地域資源を活用した体験活動を教育課程に位置付ける
・保護者、地域人材の積極的活用
・探究型体験活動の充実
・読書活動を通した思考の深化
【指標】
・地域協働活動 年間回数

・体験活動実施回数の増加
・年間読書数の増加

5 目指す教職員像
（1）問いを設計し、主体的・対話的で深い学びを創る授業者
（2）子供一人ひとりの変容を見取り、成長を言語化できる評価者
（3）挑戦を支え、やり抜く過程に伴走する伴走者
（4）保護者・地域と協同し、社会に開かれた教育課程を実現する教育者
（5）子供の「好き」と「得意」を伸ばす愛情深い専門職
（6）互いを尊重し、学び合い、高め合い、支え合う組織をつくる教育者
（7）責任と自律を備えた教育者
本年度は、特に「問いを設計できる授業者」の育成に重点を置く。

6 研究・研修
研究主題 検討中 例えば「問いを起点とした学びの翼の育成～自己決定・関係性・挑戦回復力を可視化する授業改善と評価について～」
3 年間取り組んだ自己肯定感の向上をベースに、教職員の主体的な取組が展開される研修を実施する。教員歴や年齢や得意なことがそれぞれ異なる教職員が、よさを発揮し、学校として共通の取組を行うことのできる重点研修、1 年間の教育活動上、欠かせない研修は、共通意識・共通行動につながる重要な研修であるととらえ、計画的に実施する。

7 働き方改革
(1) 目的
教職員のウェルビーイングは、児童のウェルビーイングの前提条件である。働き方改革を「時間削減」ではなく、「教育の質の向上のための環境整備」と捉える。学校にしか提供できない教育活動を充実させ、子供たち一人ひとりに「学ぶことの楽しさ」を実感させるために、教職員が心身共に健康で、新たな取組に積極的に挑戦できる気力の充実を図る。
(2) 目標
・時間外在校等時間３０時間(月間)、年３６０時間以下
・困った時にも、声をかけ、助け合える誰もが居心地よく、やりがいと自己の成長を感じて働ける職場づくり・職務遂行

(3) 基本方針
・教育活動の質の向上を最優先に、行事・校務の精選、ICT 活用、会議の効率化を図る。
・「ありのまま」「ありがとう」「なんとかなる」「やってみよう」を合言葉に、教職員間の関係性の向上を図る。
・予算の獲得、制度変更などを伴わずに行う意識改革、行動変容につながる創意工夫を生かした取組を積極的に実施する。
・よりよい教育活動、校務の効率化に資する取組の教職員間の共有・伝達を進める。

具体的な取組

①通知表の所見の書き方についての変更(1 学期道徳・外国語、2 学期総合・特活、 3 学期総合所見)
②余剰時間の縮減と成績処理時間の確保
③タイピングタイムの設定とモジュール化、高学年の総合的な時間としてのカウント
④校務分掌、出張文書の収受と保管方法の変更
⑤個人面談等の調整のデジタル化
⑥学校応援団、保護者の教育活動の協力強化
⑦学校開庁、学校閉庁時刻の明確化と自己研修の事前申し出制
⑧学級通信の廃止、スクリレの掲示板の利用
⑨学年通信の簡略化
⑩スクールサポートスタッフ、業務改善支援員による学級事務等の支援強化
⑪ICT ミニ研修会の実施
⑫夏休みの自由課題の精選
⑬職務環境のデジタル化
⑭職員室内の効率的な動線の確保(不要物の廃棄、作業効率を考えた資料の配置)

私たちは、問いを起点に、思考と挑戦が循環する学校文化を創る。子供一人ひとりが変容を実感し、共に未来を拓く 1 年とする。